



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

『信誠』

人は言葉を持っている

言葉は目に見えない

そして、手にも取れない

それでも言葉の真実は形にしないと

人には伝わらない

ウソでごまかす心のズルさ

ウソで逃げてしまう心の弱さ

ウソは「責任」を背負っていないから出る言葉

「できる」、「できない」という事ではなく

言ったからには「してみよう」と思う気持ちが大切だ

そして「しない」よりは「する」形に動いてみよう

言った事が成さなければウソになる

ウソになれば人は去って行く

人に言うと言って「信」

言った事を成すと書いて「誠」

どちらも「言」の文字がある

それだけ言葉は大切だ

「信誠」から「言」を取り出した

残った文字は「人」と「成」

ふたつ合わせると「成人」になる

子供だろうが老人だろうが「責任」を持ち、

言った事を実行する

それを「成人(おとな)」と言う

逆にそれができないものは「成人(おとな)」

とは言わずにウソツキになる

「信誠」

人が人の世界を築くため

人が人として成長していくため

最も大切な言葉である



希哉